

NO. 325

じゅんあい

平成26（2014）年4月1日

スミルナの教会



【スミルナにある教会の天使にこう書き送れ。『最初の者にして、最後の者である方、一度死んだが、また生きた方が、次のように言われる。「わたしは、あなたの苦難や貧しさを知っている。だが、本当はあなたは豊かなのだ。自分はユダヤ人であるという者どもが、あなたを非難していることを、わたしは知っている。実は、彼らはユダヤ人ではなく、サタン

の集いに属している者どもである。あなたは、受けようとしている苦難を決して恐れてはいけない。見よ、悪魔が試みるために、あなたがたの何人かを牢に投げ込もうとしている。あなたがたは、十日の間苦しめられるであろう。死に至るまで忠実であれ。そうすれば、あなたに命の冠を授けよう。耳ある者は、“霊”が諸教会に告げることがよい。勝利を得る者は、決して第二の死から害を受けることはない。』】

(黙示録 2章)

“あなたは、受けようとしている苦難を決して恐れてはいけない・・・死に至るまで忠実であれ。そうすれば、あなたに命の冠を授けよう。”

まず、神の霊である約束の聖霊が120名の弟子達に注がれた。それは殉教の霊でもあった。

【あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。】
(使徒言行録 1章)

この証人とは殉教者と同意語である。そして文字通りキリストを通し、殉教していった人物にステファノがいる。

彼はエルサレムの教会の七人の選びの中の一人で【さて、ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業とするしを民衆の間で行っていた。】(使徒6章8)と信頼されていたクリスチャンであった。

【最高法院の席についていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。】
(使徒 6章)

【ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った

人々は大声で叫びながら耳をふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、都の外に引きずり出して石を投げ始めた。
証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。
人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、「主イエスよ、わたしの霊をお受けください」と言った。
それから、ひざまずいて、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。】

(使徒 7章)

使徒時代に最初の殉教者となったステファノ——。
その姿は十字架のキリストのようだった。
キリスト者はキリストの如く・・・まことに模範的存在であり、キリストの如く死んでいったステファノ。その死によって目覚めた人がいた。それがサウロ（後のパウロ）なのである。

【はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。
だが、死ねば、多くの実を結ぶ。
自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。】



(ヨハネ 12章)

一粒の麦として死んでいったステファノではあったが、使徒パウロの誕生によってどれだけの人々が救われていったことか・・・。

一粒の麦、殉教者。

古代ローマにおいても沢山のクリスチャンが捕えられ、コロセウムなどで殉教していった。しかし、その殉教の地にローマ法王が全世界に平和の祈りを捧げるバチカンが建国され、ローマはキリスト教のセンターと変えられていった。

さらに私達の国、日本においてもザビエルの福音がその柱石とされた高山右近らに受け継がれ、清らかな信仰の花を咲かせ、豊かな実を実らせていった。

そして250年の迫害のさなか30万人ともいわれる殉教者の血が流されたのであった。必ずやこの犠牲は無駄にならず、聖徳の花が咲きかおる結果となるであろう。

【小羊が第五の封印を開いたとき、神の言葉と自分たちがたてた証しのために殺された人々の魂を、わたしは祭壇の下に見た。

彼らは大声でこう叫んだ。

「真実で聖なる主よ、いつまで裁きを行わず、地に住む者にわたしたちの血の復讐をなさないのですか。」

すると、その一人一人に、白い衣が与えられ、また、自分たちと同じように殺されようとしている兄弟であり、仲間の僕である者たちの数が満ちるまで、なお、しばらく静かに待つようにと告げられた。】

(黙示 6章)

殉教者の叫び！ は今でもこだましている。殉教者の数が満ちるまで！！
ずしりと心にこの御言葉が迫ってくる。

日本最初の殉教者“長崎26聖人”。その中の12歳のルドビコ少年のように“ぼくの十字架”とあって殉教を愛し、十字架を抱きゆくもう一人の人の登場を、主は今どれほど願っておられることか。

【この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け、手にナツメヤシの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、大声でこう叫んだ。

「救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、小羊とのものである。」また、天使たちは皆、玉座、長老たち、そして四つの生き物を囲ん

で立っていたが、玉座の前にひれ伏し、神を礼拝して、こう言った。

「アーメン。賛美、栄光、智恵、感謝、誉れ、力、威力が、世々限りなくわたしたちの神にありますように、アーメン。」すると、長老の一人がわたしに問いかけた。

「この白い衣を着た者たちは、だれか。また、どこから来たのか。」そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存じです」と答えると、長老はまた、わたしに言った。

「彼らは大きな苦難を通して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。それゆえ、彼らは神の玉座の前において、昼も夜もその神殿で神に仕える。

玉座に座っておられる方が、この者たちの上に幕屋を張る。彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽も、どのような暑さも、彼らを襲うことはない。

玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれるからである。】

(黙示録 7章)

ハレルヤ!

キリストの真の証人 殉教者に対する神様の祝福と天よりの恵み・・・。
その深さと崇高さの広がり of 天的美と魅力が心に深く深く臨む。

スミルナの教会とは、どのような教会なのか。その答えが心に静かに解き明かされるように思えるのである。

殉愛キリスト教会

牧師：山 縣 實

〒920-0814 石川県金沢市鳴和町タ 210 Tel・Fax 076-251-2247

E-mail : jun-i-yamagata@ishikawa.email.ne.jp

URL : <http://www.ne.jp/asahi/jun-ai/christ-church/>